

## IV 調査結果の詳細



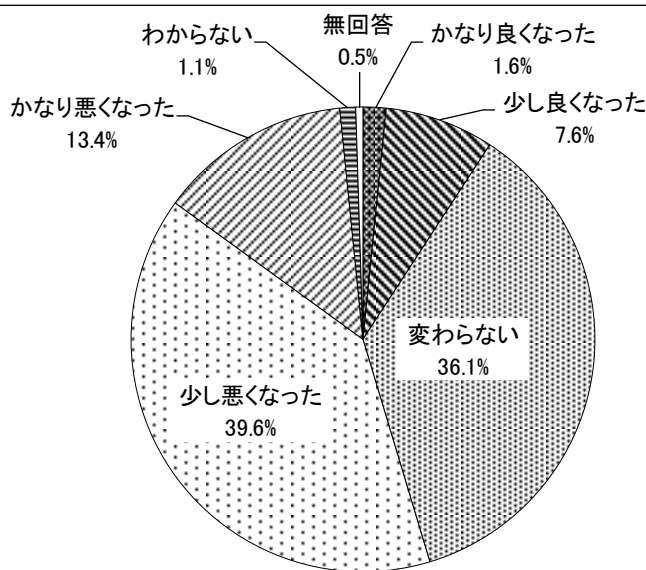
## IV 調査結果の詳細

### 1 暮らしの変化について

#### (1) 暮らしの変化

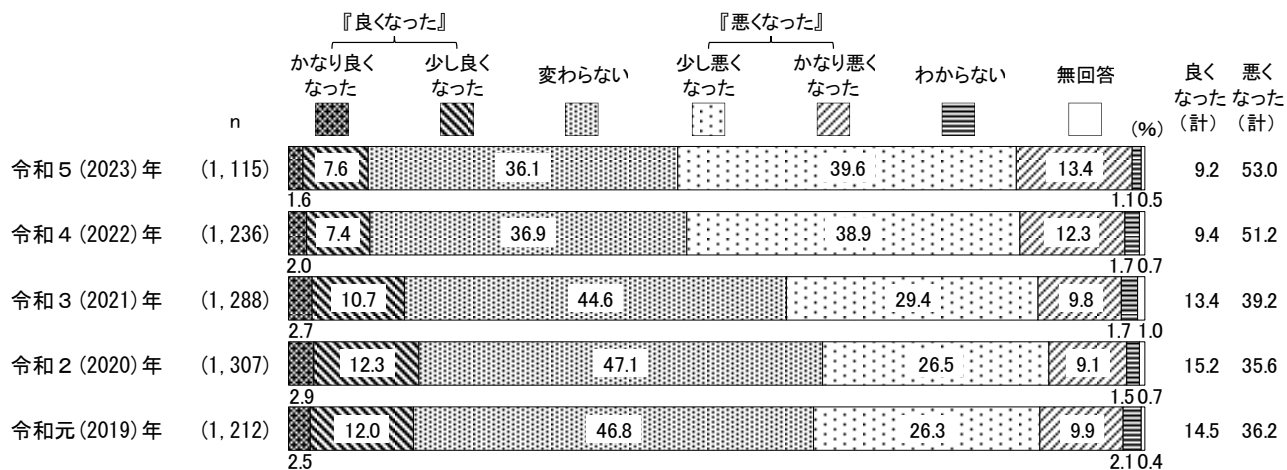
問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1 かなり良くなった	1.6%	4 少し悪くなった	39.6%
2 少し良くなった	7.6%	5 かなり悪くなった	13.4%
3 変わらない	36.1%	6 わからない	1.1%
		(無回答)	0.5%



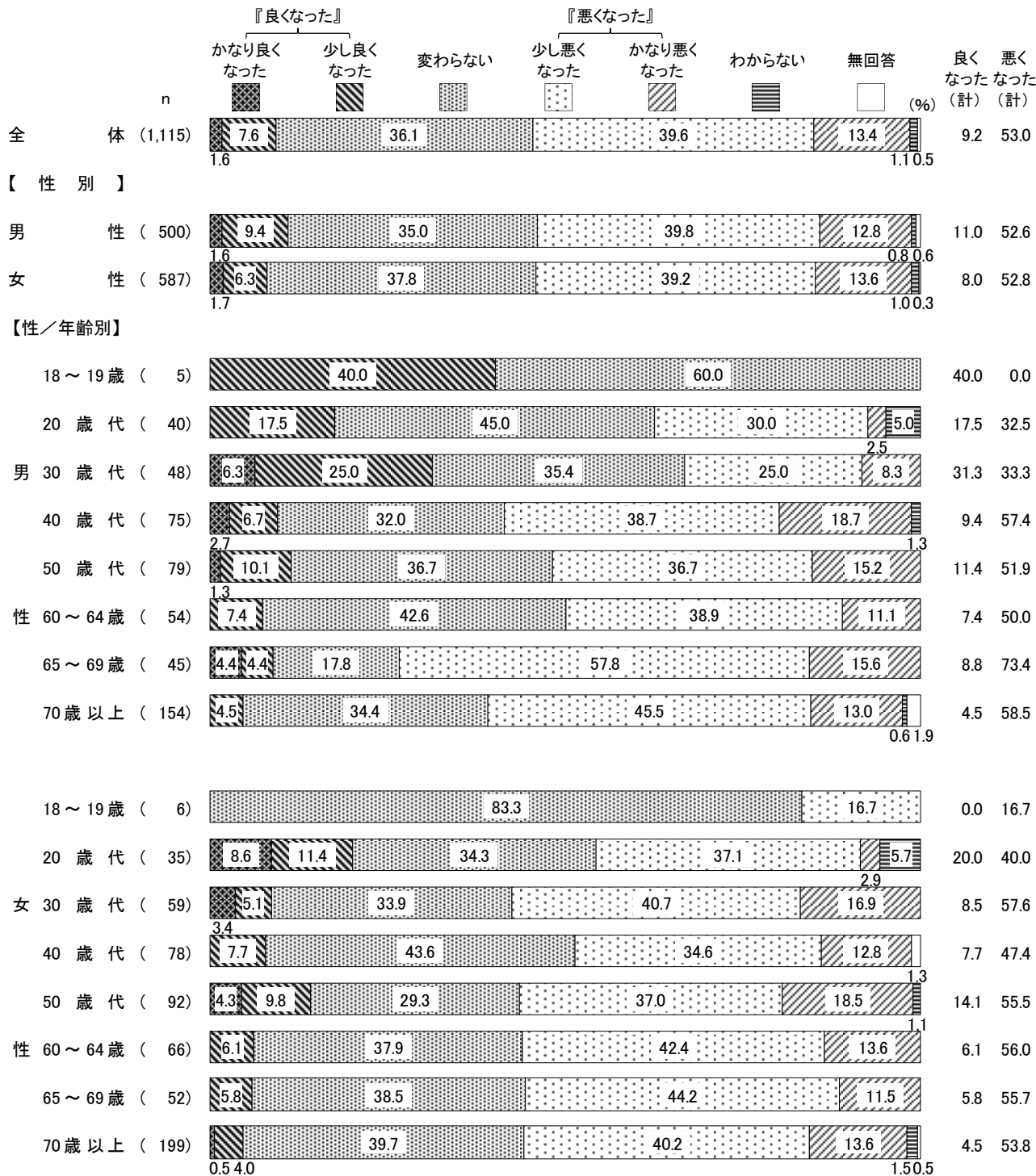
(n=1,115)

全体でみると、「かなり良くなった」(1.6%)と「少し良くなった」(7.6%)の2つを合わせた『良くなった』(9.2%)が1割弱となっている。一方、「少し悪くなった」(39.6%)と「かなり悪くなった」(13.4%)の2つを合わせた『悪くなった』(53.0%)が5割台半ば近くとなっている。また、「変わらない」(36.1%)が3割台半ばを超えている。



過去の調査結果と比較すると、『悪くなった』が令和2(2020)年より増加傾向が続き、令和2(2020)年より17.4ポイント増加している。

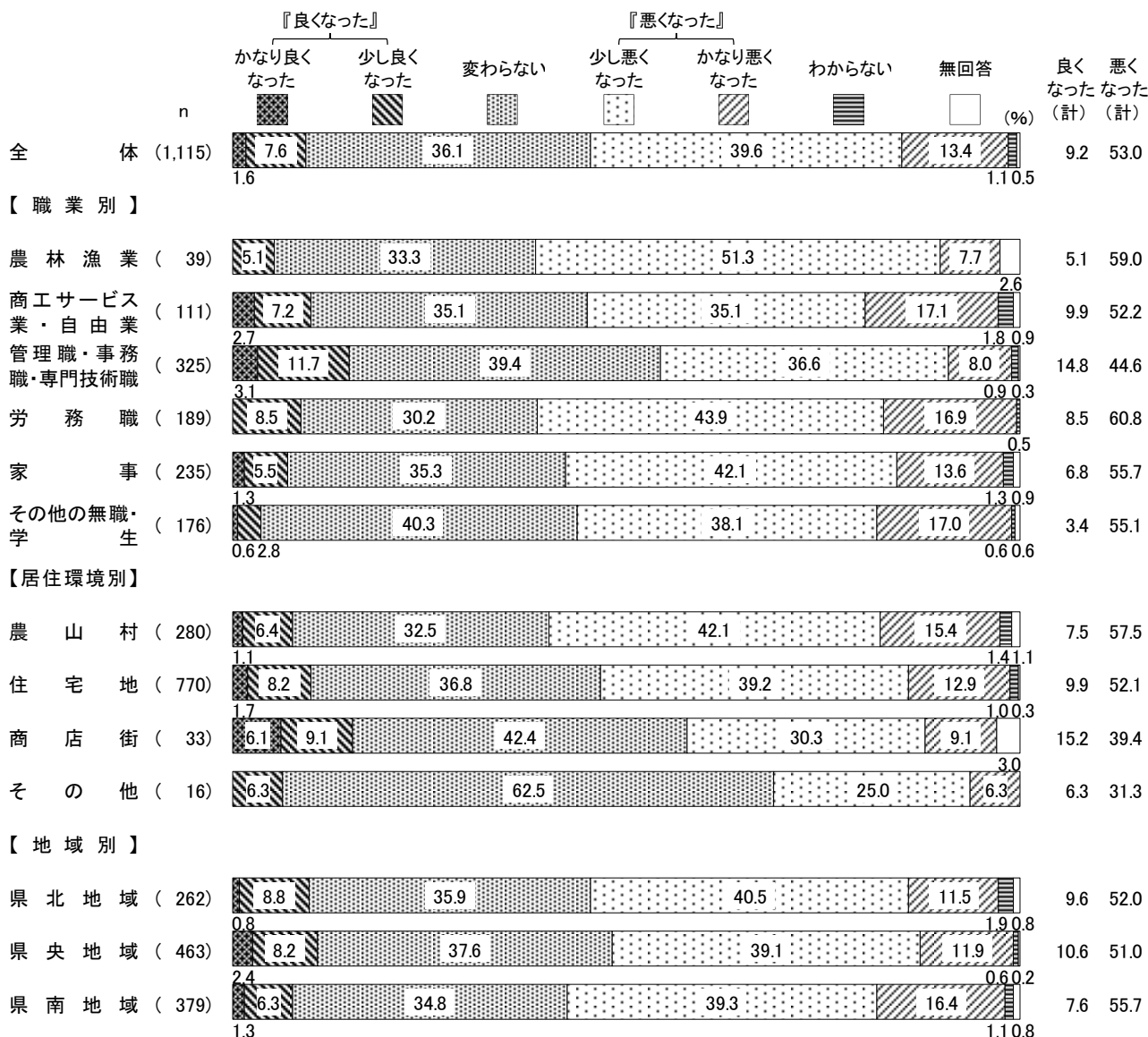
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『良くなった』では〈男性30歳代〉が31.3%、〈女性20歳代〉が20.0%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈男性65～69歳〉が73.4%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、『良くなった』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が14.8%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈労務職〉が60.8%、〈農林漁業〉が59.0%と高くなっている。

居住環境別でみると、『良くなった』では〈商店街〉が15.2%と高くなっている。

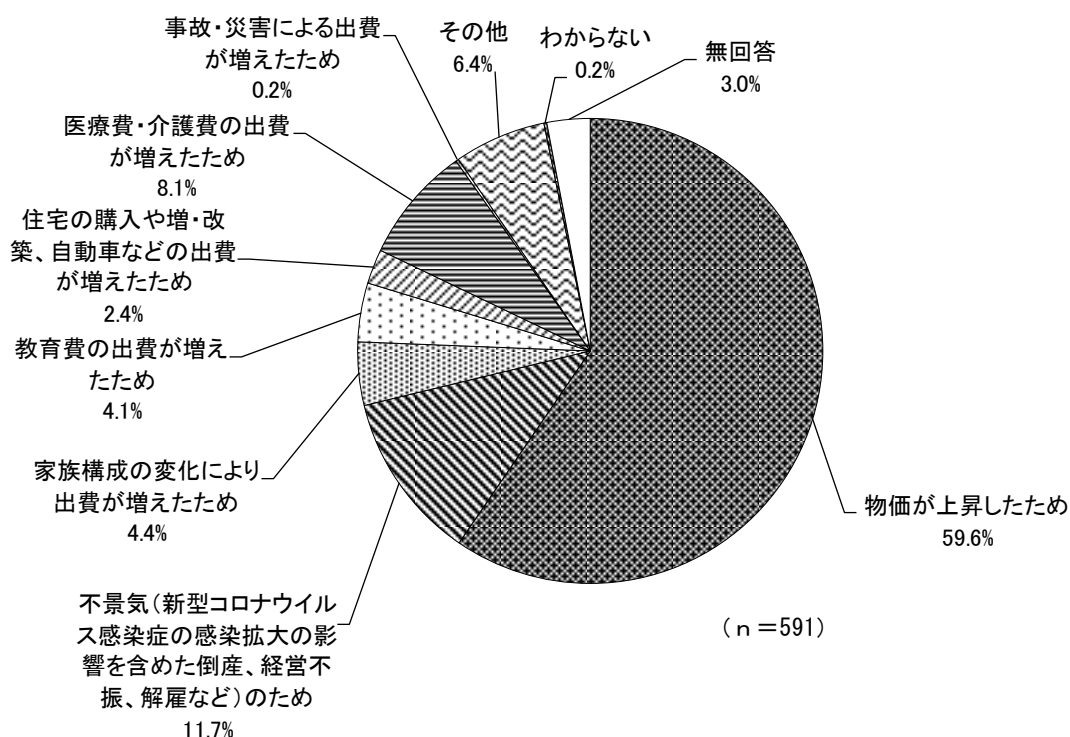
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 暮らしが悪くなった理由

(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

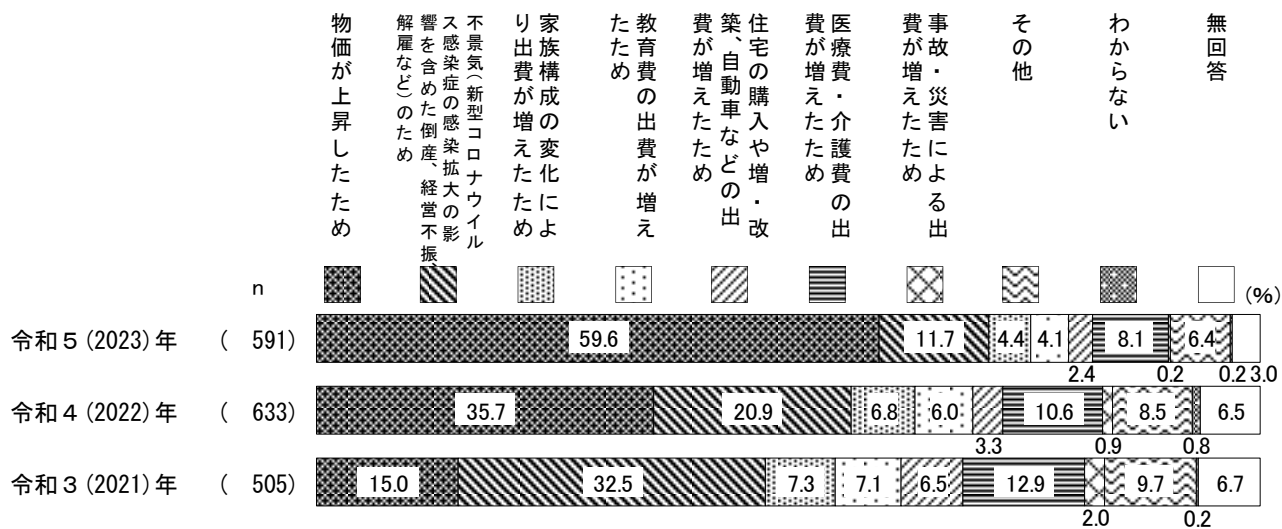
問2 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。 [n = 591]

1	物価が上昇したため	59.6%
2	不景気(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など)のため	11.7
3	家族構成の変化により出費が増えたため	4.4
4	教育費の出費が増えたため	4.1
5	住宅の購入や増・改築、自動車などの出費が増えたため	2.4
6	医療費・介護費の出費が増えたため	8.1
7	事故・災害による出費が増えたため	0.2
8	その他	6.4
9	わからない (無回答)	0.2 3.0



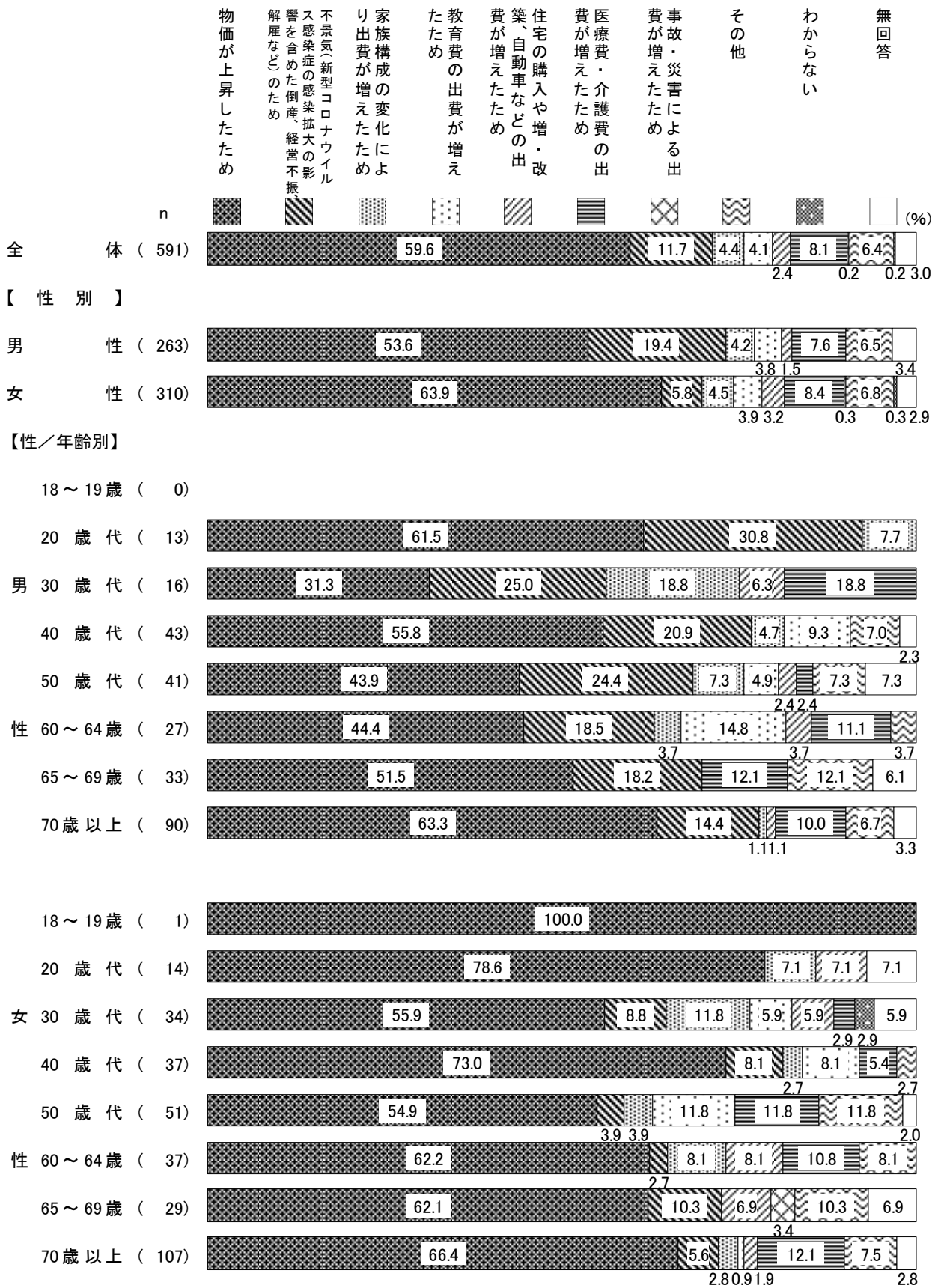
全体で見ると、「物価が上昇したため」(59.6%)が6割弱で最も高く、次いで「不景気(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など)のため(以下『不景気のため』という。)」(11.7%)、「医療費・介護費の出費が増えたため」(8.1%)の順となっている。

[過去の調査結果]



前回（令和4（2022）年）の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」が23.9ポイント増加している。一方、『不景気のため』が9.2ポイント減少している。

【性別・性／年齢別】

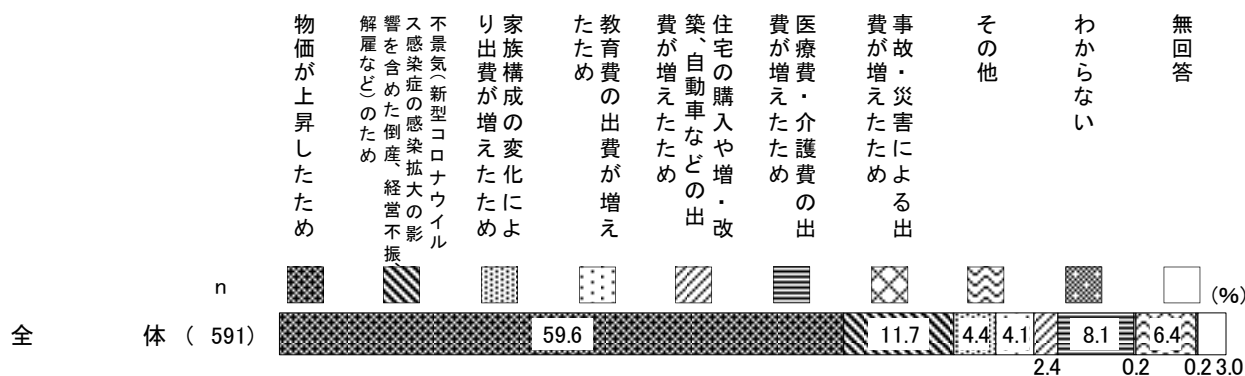




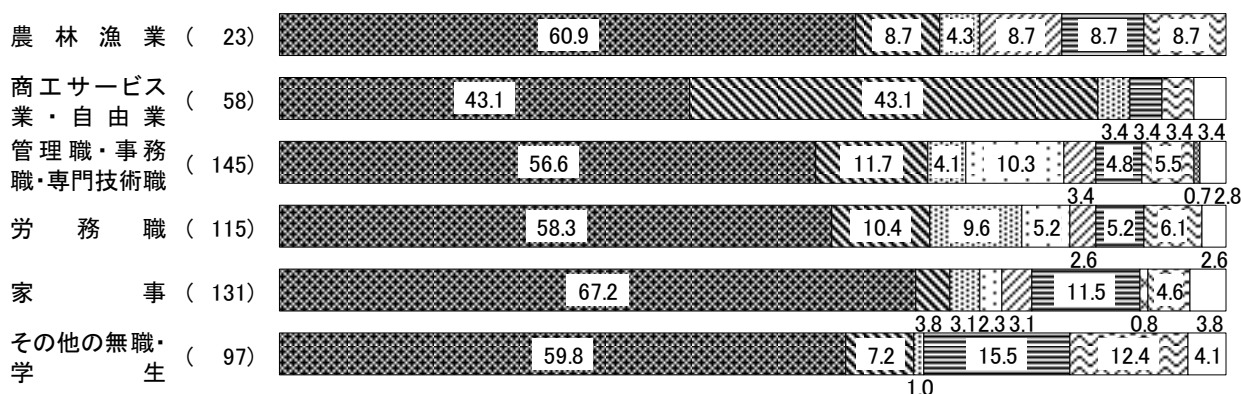
性別で見ると、『不景気のため』では〈男性〉(19.4%)が〈女性〉(5.8%)より13.6ポイント高くなっている。「物価が上昇したため」では〈女性〉(63.9%)が〈男性〉(53.6%)より10.3ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「物価が上昇したため」では〈女性20歳代〉が78.6%、〈女性40歳代〉が73.0%と高くなっている。『不景気のため』では〈男性20歳代〉が30.8%、〈男性30歳代〉が25.0%、〈男性50歳代〉が24.4%と高くなっている。「家族構成の変化により出費が増えたため」では〈男性30歳代〉が18.8%と高くなっている。「教育費の出費が増えたため」では〈男性60～64歳〉が14.8%と高くなっている。「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈男性30歳代〉が18.8%と高くなっている。

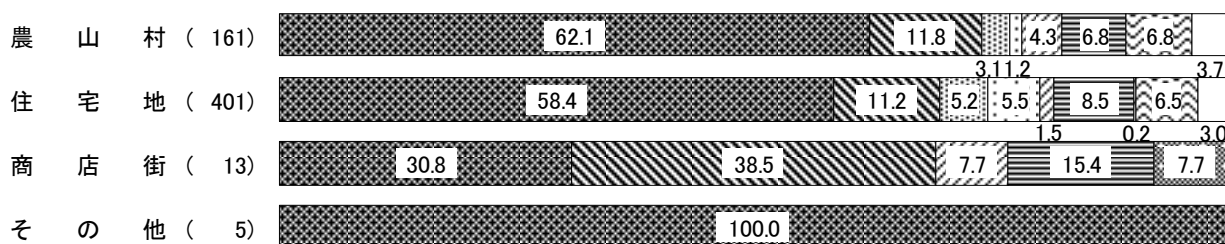
[職業別・居住環境別]



【職業別】



【居住環境別】



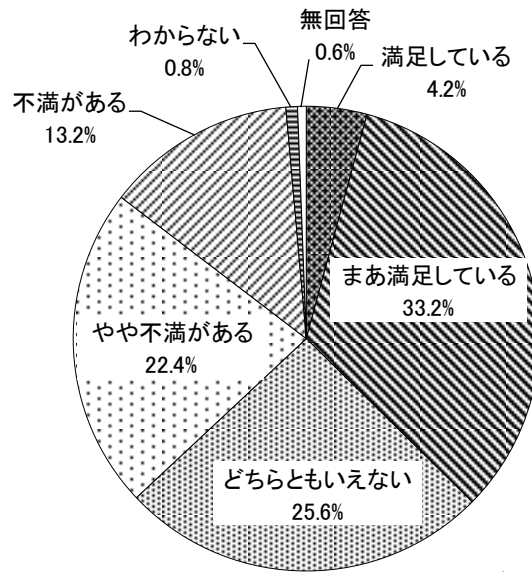
職業別でみると、「物価が上昇したため」では〈家事〉が67.2%と高くなっている。『不景気のため』では〈商工サービス業・自由業〉が43.1%と高くなっている。「家族構成の変化により出費が増えたため」では〈労務職〉が9.6%と高くなっている。「教育費の出費が増えたため」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が10.3%と高くなっている。「住宅の購入や増・改築、自動車などの出費が増えたため」では〈農林漁業〉が8.7%と高くなっている。「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈その他の無職・学生〉が15.5%と高くなっている。

居住環境別でみると、『不景気のため』では〈商店街〉が38.5%と高くなっている。「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈商店街〉が15.4%と高くなっている。

### (3) 暮らしの満足度

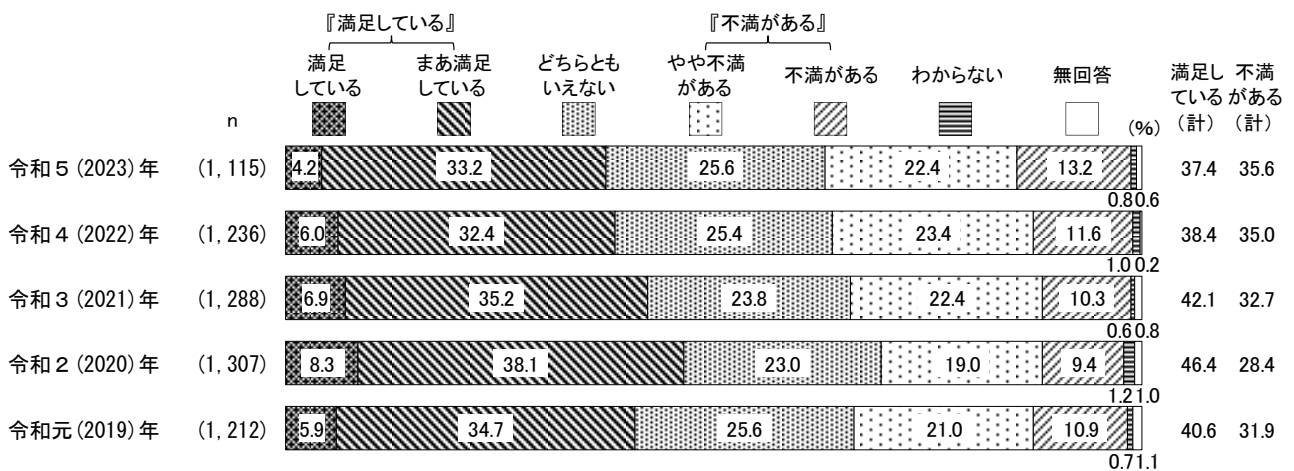
問3 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1 満足している	4.2%	4 やや不満がある	22.4%
2 まあ満足している	33.2%	5 不満がある	13.2%
3 どちらともいえない	25.6%	6 わからない	0.8%
		(無回答)	0.6%



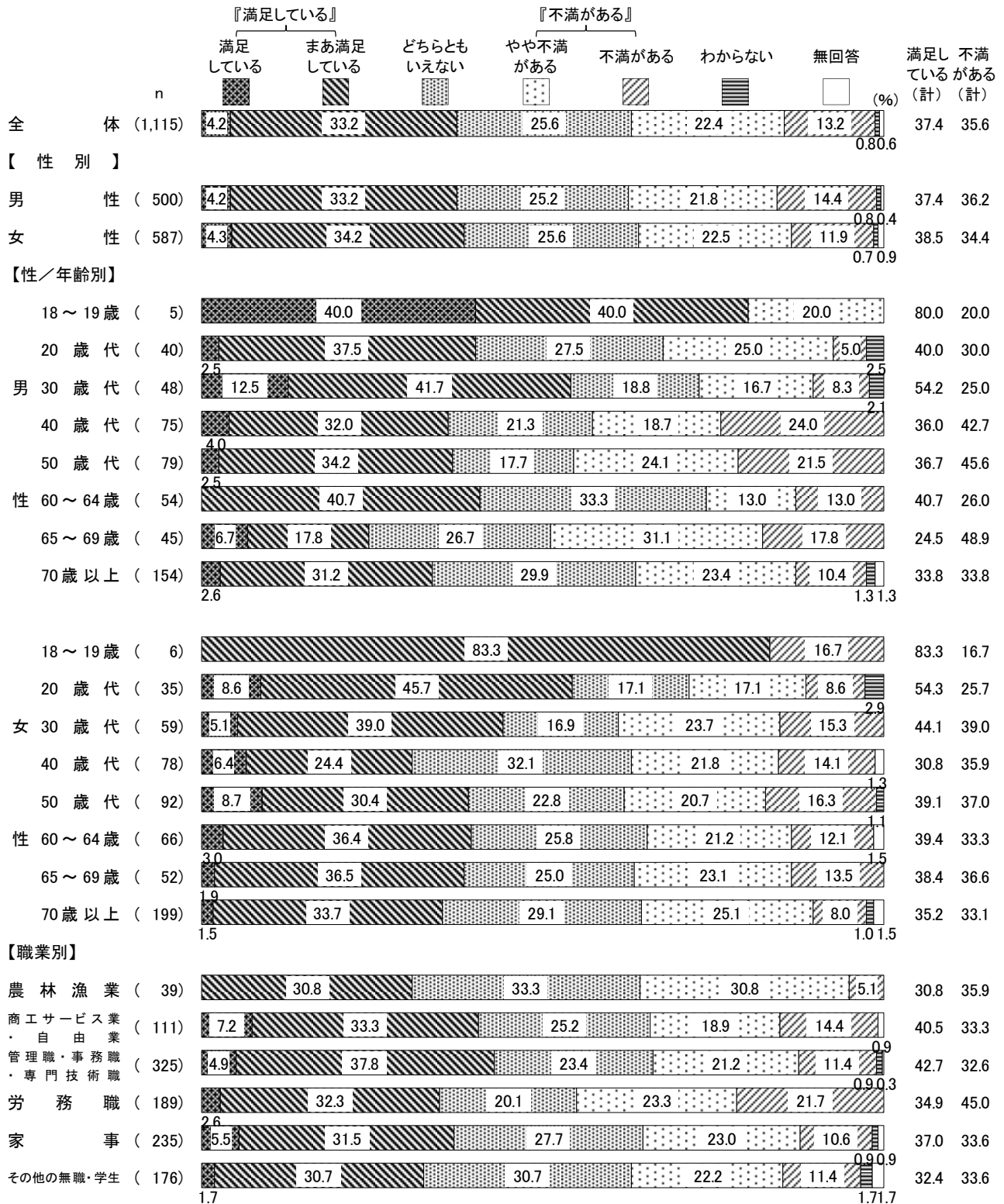
(n=1,115)

全体で見ると、「満足している」(4.2%)と「まあ満足している」(33.2%)の2つを合わせた『満足している』(37.4%)が3割台半ばを超えている。一方、「やや不満がある」(22.4%)と「不満がある」(13.2%)の2つを合わせた『不満がある』(35.6%)は3割台半ばとなっている。また、「どちらともいえない」(25.6%)が2割台半ばとなっている。



過去の調査結果と比較すると、『満足している』が令和2(2020)年より減少傾向が続き、令和2(2020)年より9.0ポイント減少している。

【性別・性／年齢別・職業別】

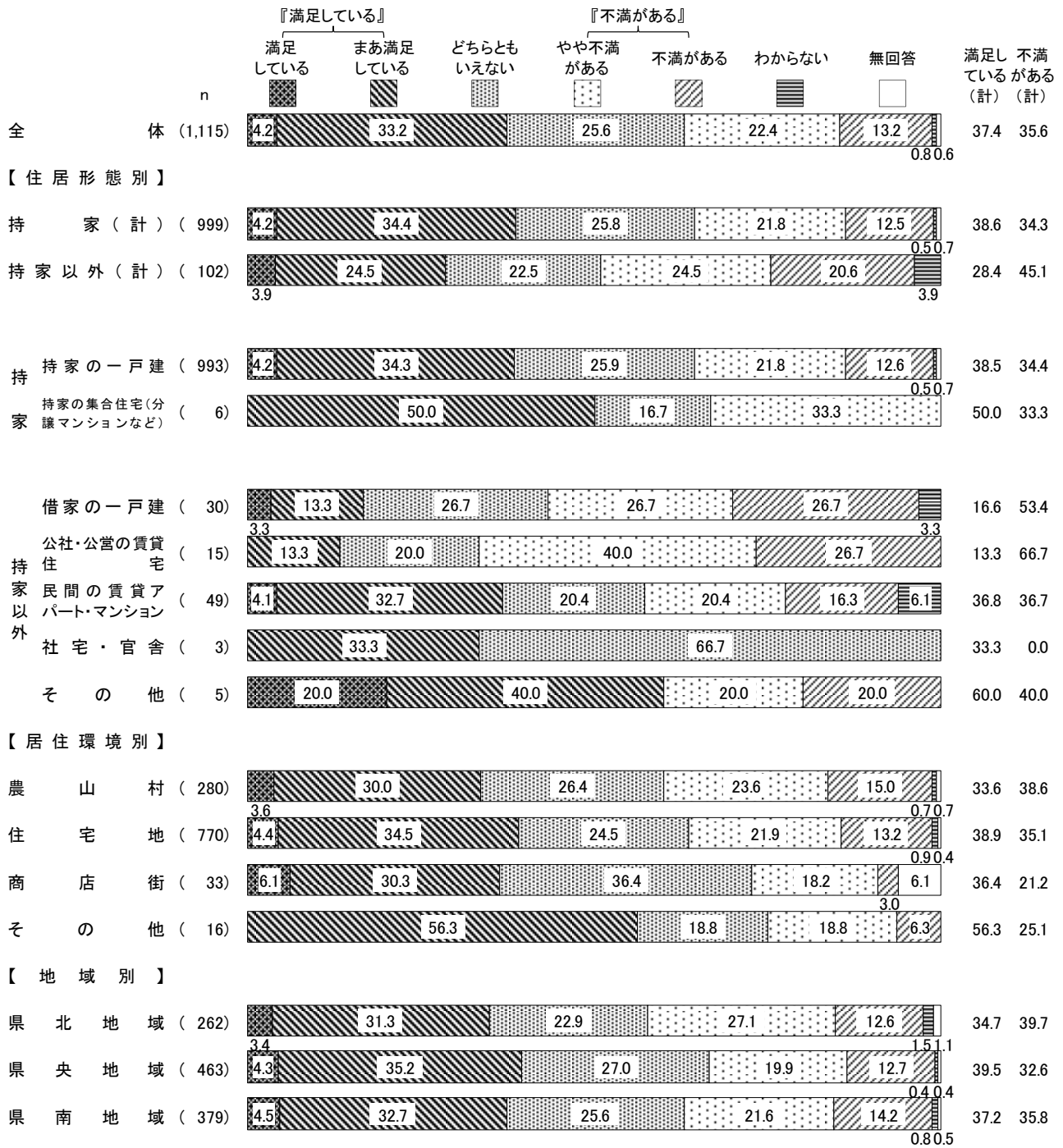


性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『満足している』では〈女性20歳代〉が54.3%、〈男性30歳代〉が54.2%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈男性65～69歳〉が48.9%、〈男性50歳代〉が45.6%と高くなっている。

職業別でみると、『満足している』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が42.7%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈労務職〉が45.0%と高くなっている。

[住居形態別・居住環境別・地域別]



住居形態別で見ると、『不満がある』では〈持家以外 (計)〉(45.1%) が〈持家 (計)〉(34.3%) より10.8ポイント高くなっている。

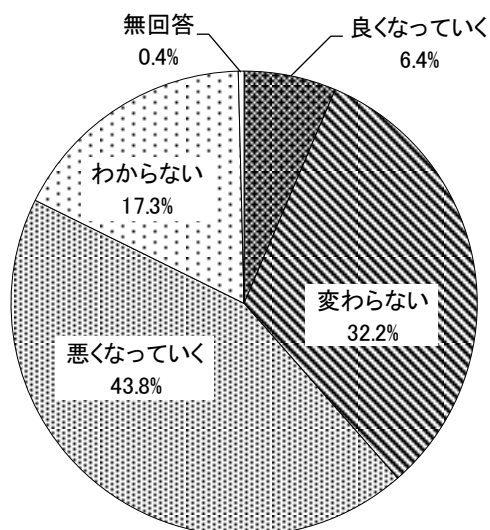
居住環境別で見ると、『不満がある』では〈商店街〉が21.2%と低くなっている。

地域別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

#### (4) 今後の暮らしの状況

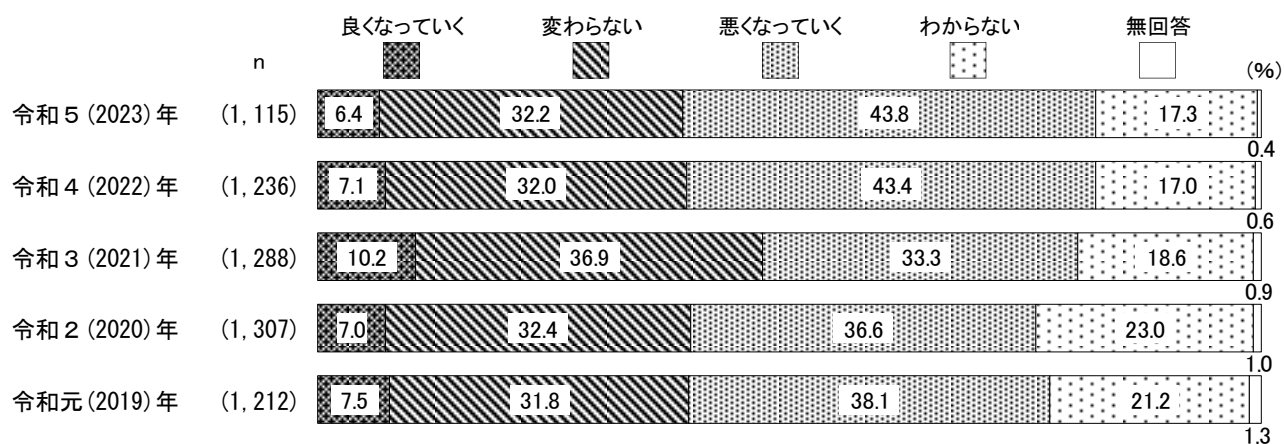
問4 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1 良くなっていく	6.4%	3 悪くなっていく	43.8%
2 変わらない	32.2	4 わからない	17.3
		(無回答)	0.4



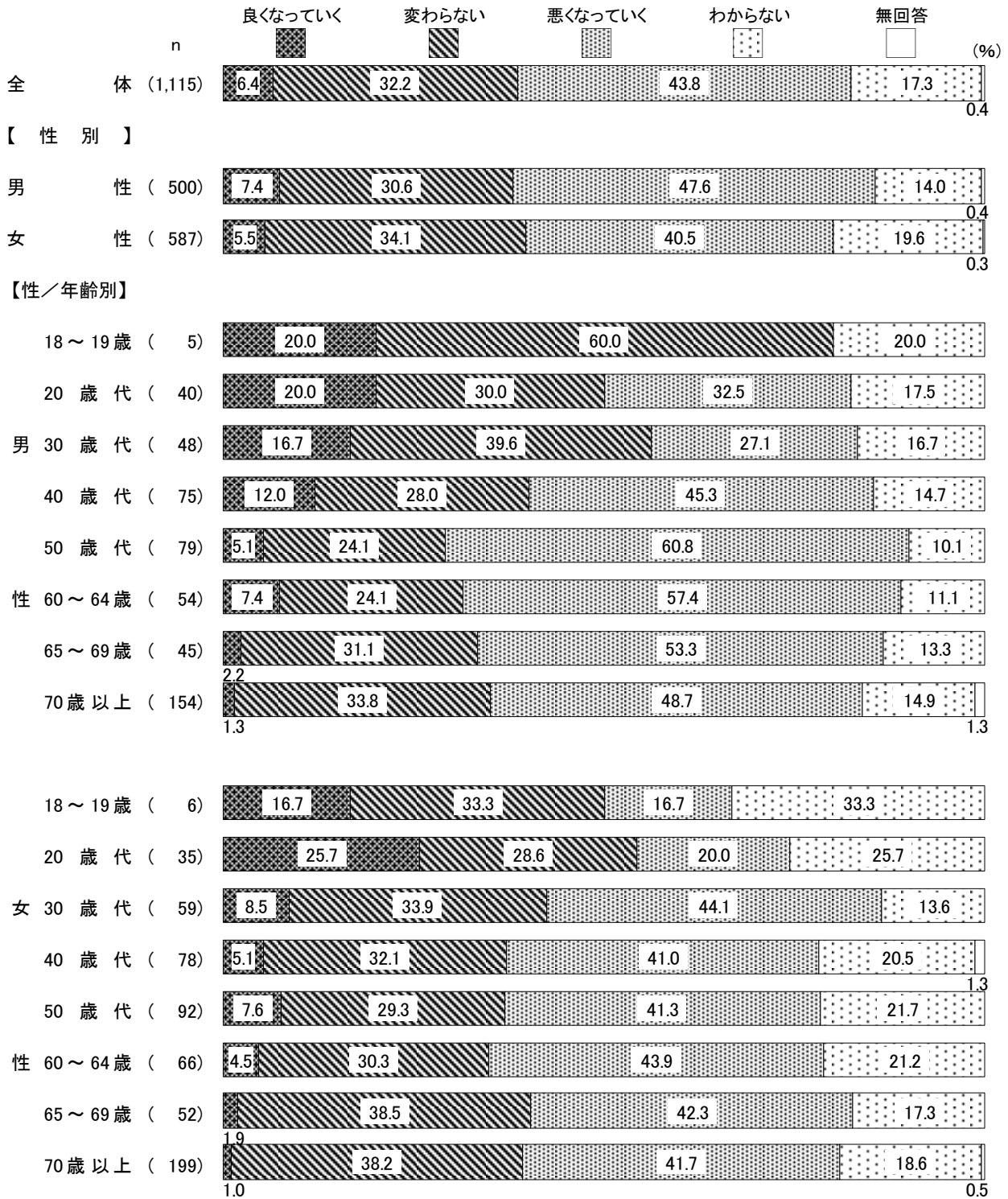
(n=1,115)

全体でみると、「悪くなっていく」(43.8%)が4割台半ば近くとなっており、「変わらない」(32.2%)が3割強となっている。



過去の調査結果と比較すると、「悪くなっていく」が令和3(2021)年より増加傾向が続き、令和3(2021)年より10.5ポイント増加している。

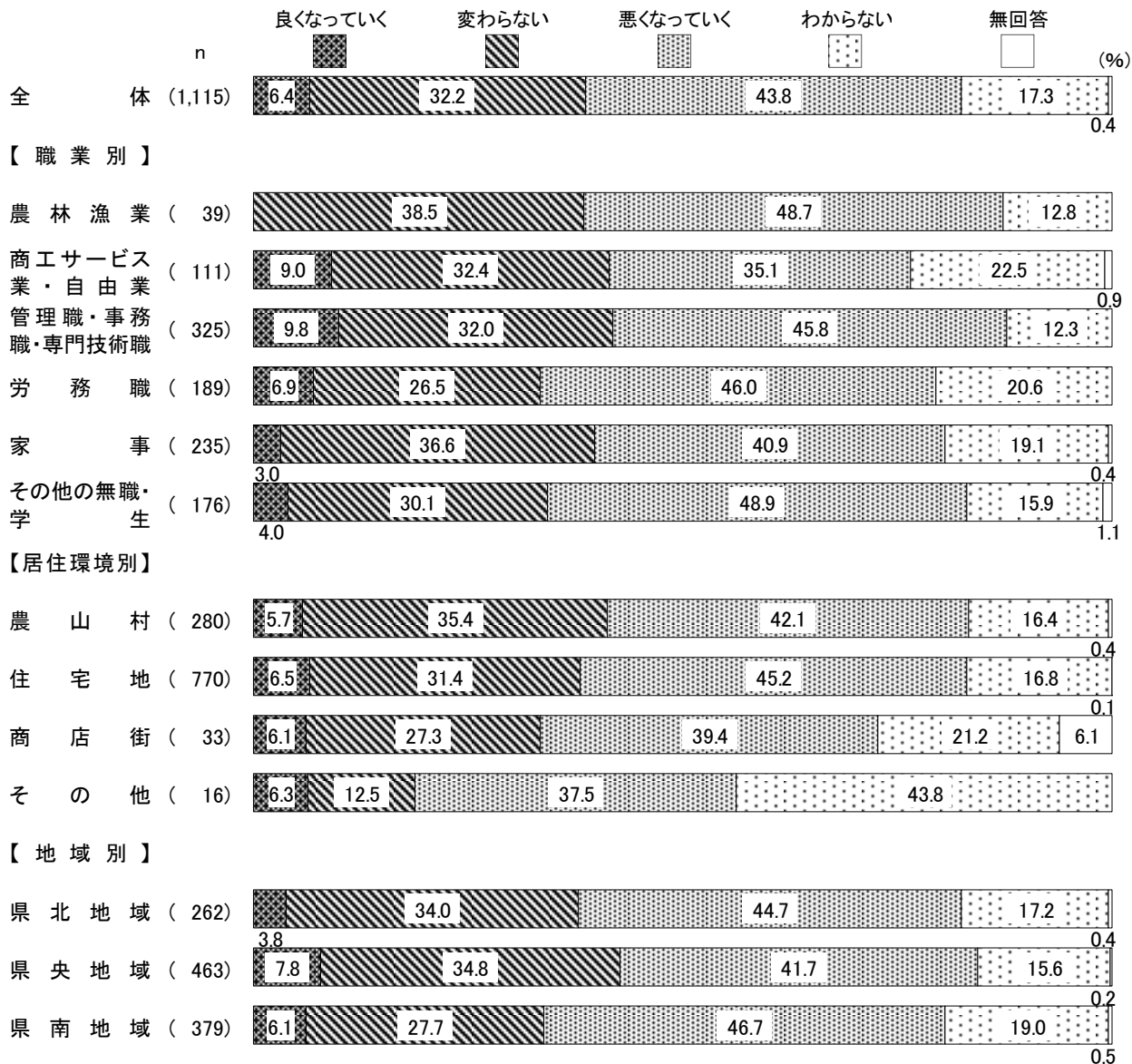
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「悪くなっていく」では、〈男性〉(47.6%)が〈女性〉(40.5%)より7.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈女性20歳代〉が25.7%、〈男性20歳代〉が20.0%、〈男性30歳代〉が16.7%と高くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈男性50歳代〉が60.8%、〈男性60～64歳〉が57.4%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、「悪くなっていく」では〈その他の無職・学生〉が48.9%と高くなっている。「変わらない」では〈農林漁業〉が38.5%と高くなっている。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

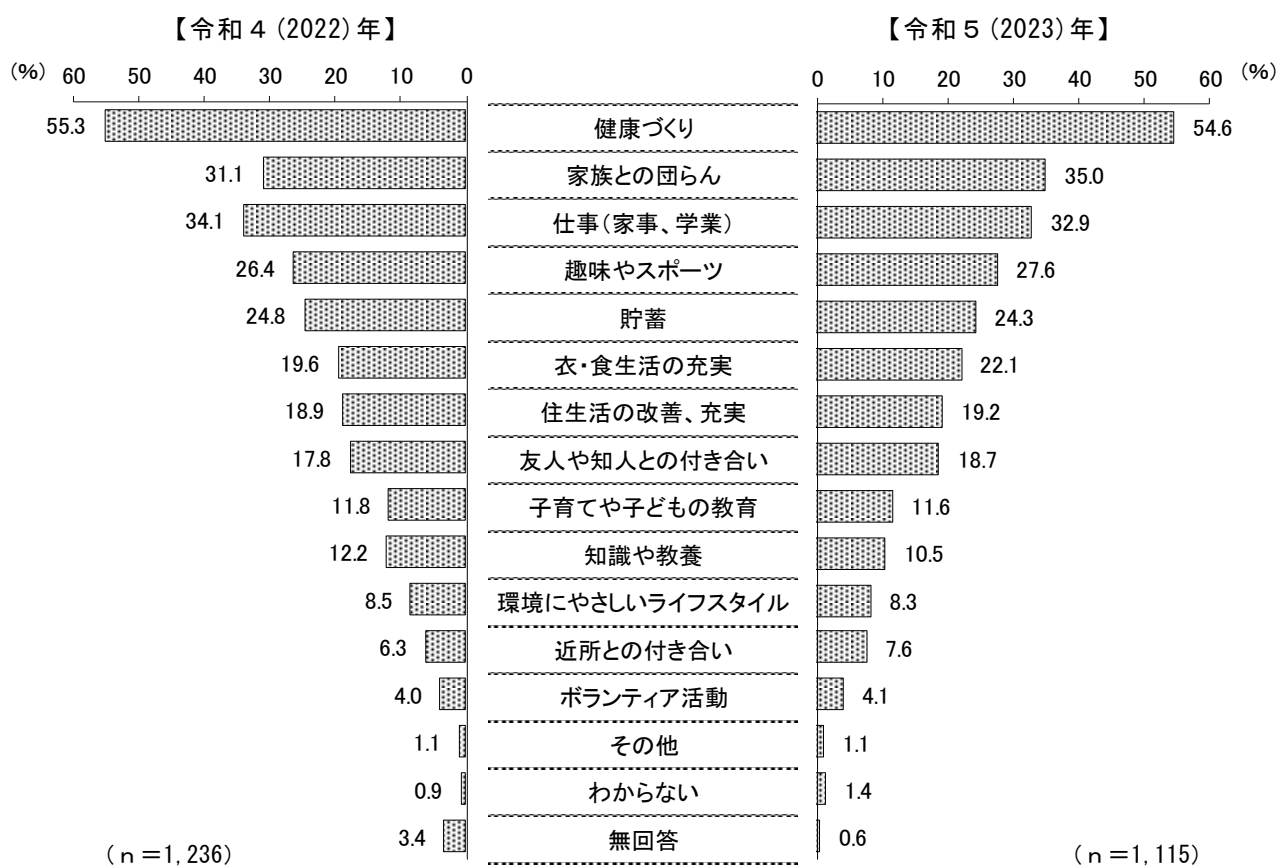
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。



## (5) 今後の暮らしで力を入れる点

問5 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,115]

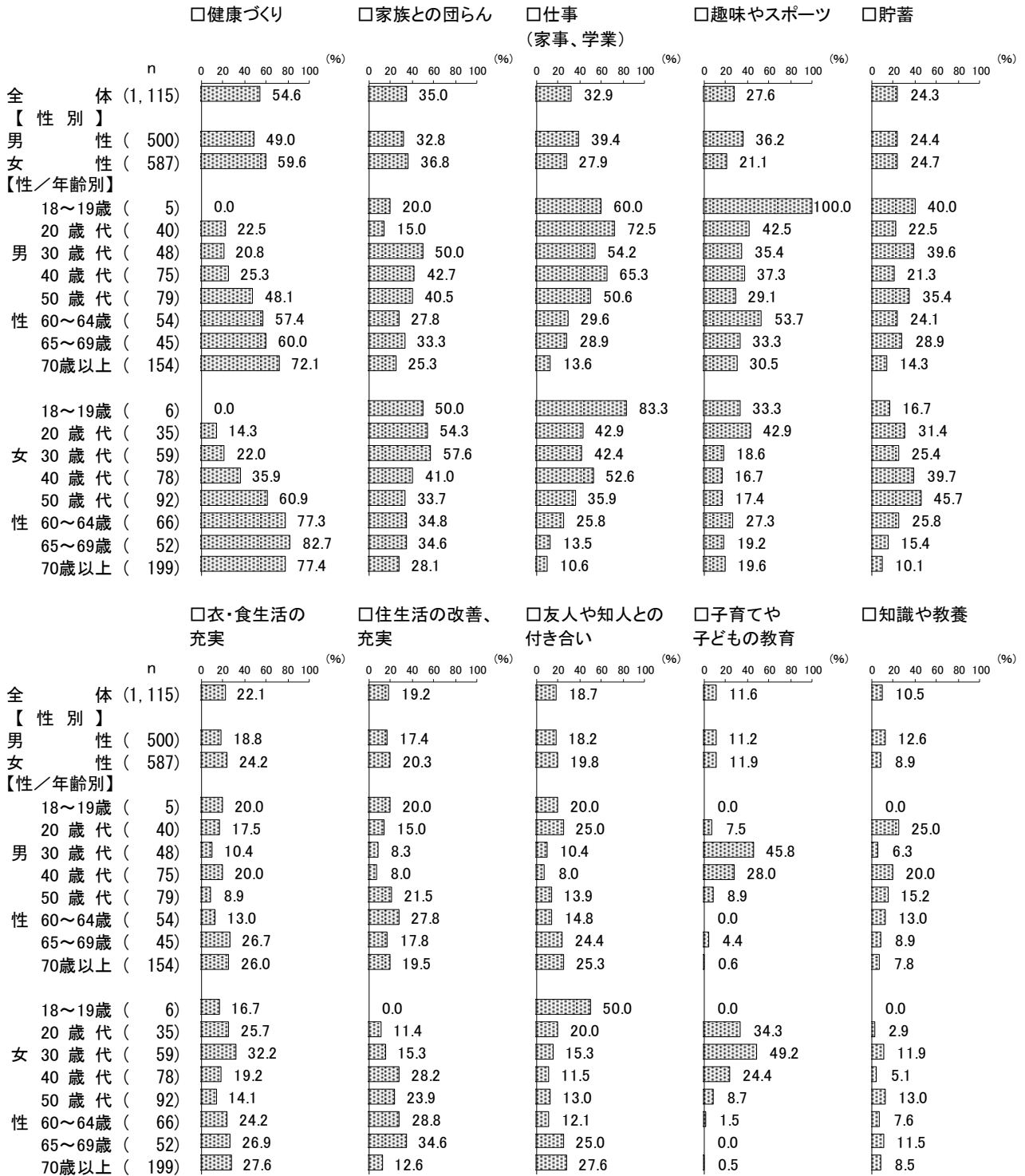
1	仕事(家事、学業)	32.9%	9	家族との団らん	35.0%
2	知識や教養	10.5	10	近所との付き合い	7.6
3	貯蓄	24.3	11	友人や知人との付き合い	18.7
4	趣味やスポーツ	27.6	12	子育てや子どもの教育	11.6
5	ボランティア活動	4.1	13	健康づくり	54.6
6	衣・食生活の充実	22.1	14	その他	1.1
7	住生活の改善、充実	19.2	15	わからない	1.4
8	環境にやさしいライフスタイル	8.3		(無回答)	0.6



全体でみると、「健康づくり」(54.6%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで「家族との団らん」(35.0%)、「仕事(家事、学業)」(32.9%)、「趣味やスポーツ」(27.6%)、「貯蓄」(24.3%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)

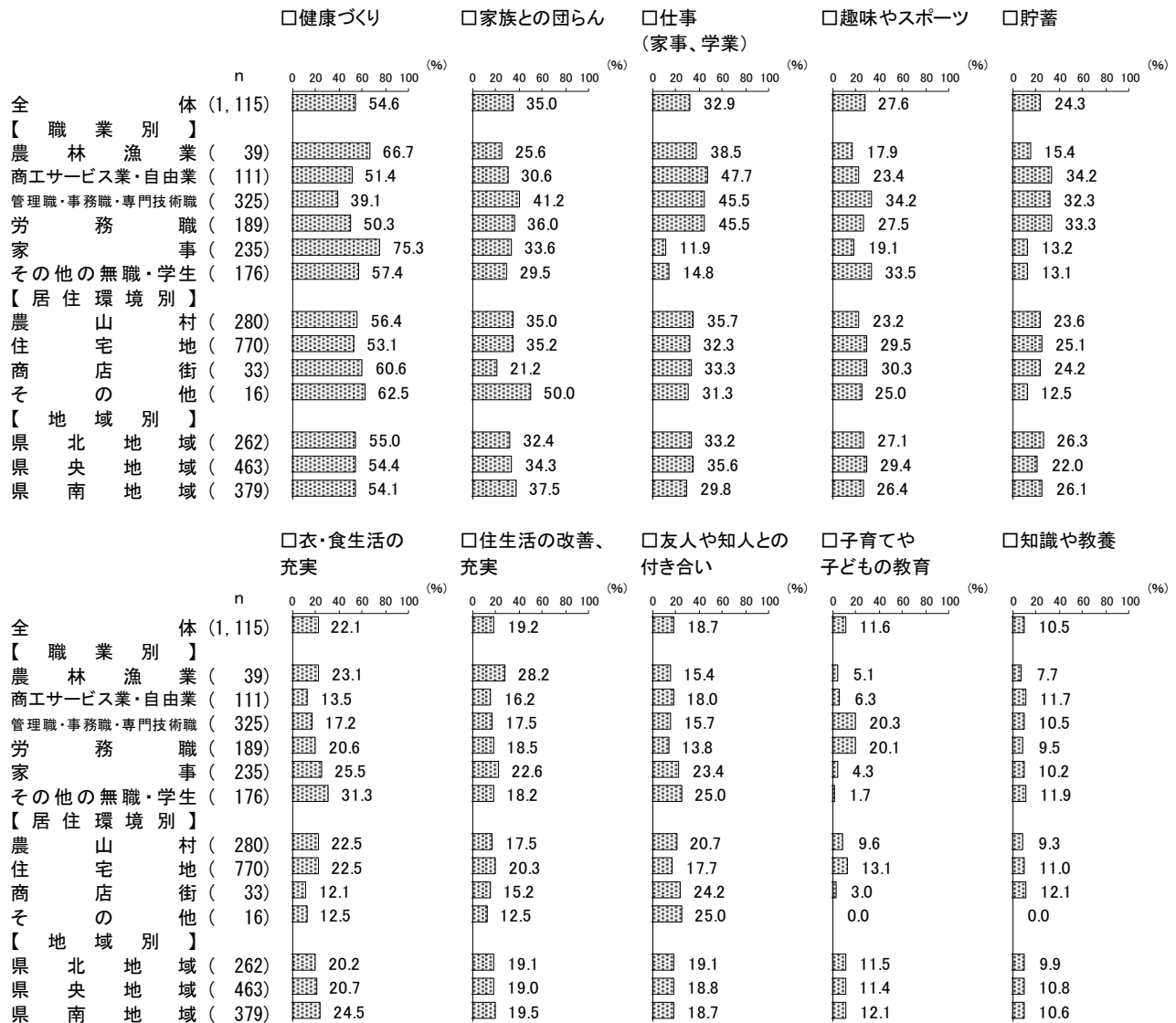


性別でみると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(36.2%)が〈女性〉(21.1%)より15.1ポイント高くなっている。また、「仕事(家事、学業)」では〈男性〉(39.4%)が〈女性〉(27.9%)より11.5ポイント高くなっている。一方、「健康づくり」では〈女性〉(59.6%)が〈男性〉(49.0%)より10.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「健康づくり」では〈女性65~69歳〉が82.7%と高くなっている。「家族との団らん」では〈女性30歳代〉が57.6%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性20歳代〉が72.5%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈男性60~64歳〉が53.7%と高くなっている。「貯蓄」では〈女性50歳代〉が45.7%と高くなっている。「衣・食生活の充実」では〈女性30歳代〉が32.2%と高く

なっている。「住生活の改善、充実」では〈女性65～69歳〉が34.6%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が49.2%と高くなっている。「知識や教養」では〈男性20歳代〉が25.0%と高くなっている。

【職業別・居住環境別・地域別】（上位10項目）



職業別でみると、「健康づくり」では〈家事〉が75.3%と高くなっている。「家族との団らん」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が41.2%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈商工サービス業・自由業〉が47.7%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が34.2%と高くなっている。「貯蓄」では〈商工サービス業・自由業〉が34.2%と高くなっている。「衣・食生活の充実」では〈その他の無職・学生〉が31.3%と高くなっている。「住生活の改善、充実」では〈農林漁業〉が28.2%と高くなっている。「友人や知人との付き合い」では〈その他の無職・学生〉が25.0%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が20.3%、〈労務職〉が20.1%と高くなっている。

居住環境別でみると、「健康づくり」では〈商店街〉が60.6%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。